



□ 海上歓迎行事(漁法紹介)

ノースアジア大学明桜高等学校吹奏楽部による「交響詩ローマの祭り」の演奏が流れる中、海上パレードを行い代表的な漁法を紹介しました。



□ 参加船一覧

1 漁船

船名	船主	漁法	説明
第百十八兼丸	伊藤 貴洋	底びき網漁業	底びき網漁業は、大きな袋状の網をひき、海底付近にいる魚介類を獲る漁業で、東北、中央、県南の3か所を拠点に、本県をリードする重要な漁法となっている。県の魚「ハタハタ」をはじめ、ヒラメやカレイ、マダイ、エビ、タコなど、季節ごとにいろいろな魚介類を漁獲している。
第三天龍丸	藤原 忠博	定置網漁業	定置網漁業は、海岸近くに大きな網を設置し、回遊する魚を網の奥に誘導して漁獲する漁法である。マグロやブリなどのほか、アジやサバ、サケなども漁獲している。初雪の降るころ、産卵のため大群で岸近くに押し寄せる季節ハタハタを漁獲するのこの定置網漁業の一つである。
新洋丸	藤原 明正	さし網漁業	さし網漁業は、海の中にカーテンのように長い網を張って、そこを通過しようとする魚をからめとる漁法である。場所や季節によって網や張り方を変えて、ヒラメやカレイ、アマダイ、シロギス、サザエなどを漁獲している。
第2文丸	村山 文夫	はえなわ漁業	はえなわ漁業は、釣り針の付いた数十本の仕掛けを、一定間隔でロープに取り付けて海に沈め、一度にたくさんの魚を釣り上げる漁法である。ヒラメやマダラ、アカムツ、メバル、トラフグ、マダイなどを漁獲している。

2 官公庁船等

船名	説明
秋田県漁業取締船 くぼた	漁業取締船「くぼた」は、秋田の豊かな海環境と水産資源を未来へと引き継ぐために、漁業の秩序と資源を守る活動をしている。漁業者だけでなく遊漁者の指導にも務めており、県民をあげての豊かな海づくりの実践に寄与している。
秋田県立男鹿海洋高等学校実習船 NAMAHAJE	秋田県立男鹿海洋高等学校実習船「NAMAHAJE」は、漁業だけではなくダイビングやクルーズなどの、海洋レジャーの実習にも対応する機能を備えており、秋田の海での活躍を夢見る若者たちを育てている。
秋田県水産振興センター漁業調査指導船 千秋丸	最新鋭の機器を備えた「千秋丸」は、海洋観測データ収集や底びき網によるハタハタやヒラメなどの資源調査等、水産資源の持続的利用と漁場環境の保全に寄与している。

□ 参加船の紹介

秋田県漁業協同組合所属の漁船4隻、秋田県立男鹿海洋高等学校実習船1隻、秋田県漁業取締船1隻が海上パレードを行い、本県の代表的な漁法を紹介しました。また、秋田県水産振興センター漁業調査指導船が沖合に停泊し、海上パレードの指揮を執りました。



第一百八兼丸



第三天龍丸



新洋丸



第2文丸



秋田県漁業取締船 くぼた



秋田県立男鹿海洋高等学校実習船 NAMAHAIGE



秋田県水産振興センター漁業調査指導船 千秋丸